

オカムラグループ統合報告書の考察

1. この会社が目指す将来の姿が理解できるか

オカムラグループが目指している将来の姿は、「人が活きる社会の実現」である。オフィス家具や産業用機器を販売しているだけでなく、人々が生活する空間において、快適に過ごすことができる環境を提供する企業を目指しているということが統合報告書から読み取ることができた。

需要創出型企业への変革も印象的だった。顧客のニーズにこたえる形で製品を販売していくのが一般的なマーケティング戦略であるが、オカムラグループは新しい社会的な課題や顧客の問題をいち早く発見して自ら需要を生み出そうとしている。働き手の減少や働き方の変化、環境問題などの社会的な課題をビジネスの機会として捉え、オカムラグループが展開するオフィス環境事業や物流システム事業によってそれらの社会問題を解決に導こうとする姿勢が理解できた。

また、国内の市場だけでなく海外の市場にも展開を積極的に行っており、2018年には「岡村製作所」から「オカムラ」へと社名を変更したことからも、グローバル化を目指していることが分かった。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

統合報告書の中では、オカムラグループの競争優位性として以下の三つの点が主に示されていた。

まず一つ目は、「顧客課題解決力」である。オカムラは製品を製造して販売するだけでなく、顧客の課題を先回りして分析することで顧客の要望が現れる前に課題解決の提案を行っている。需要創出型企业であるのは大きな強みであるといえる。

二つ目は、「確かなものづくり」である。オカムラは高い技術力や品質への強いこだわりを持っており、実際に製品を利用するユーザーのことを徹底的に考えている姿勢の表れだと考えられる。品質の向上はCO2 排出量削減などの環境への配慮にもつながっており、競争優位性に大きく貢献している。

三つ目は、「顧客との信頼関係」である。オカムラは創業以来の長年の実績とブランド力によって、さまざまな企業との取引関係を維持できている。顧客から信頼され、真っ先に相談されるような存在となっていることはかなりの強みだ。

さらに、オフィス家具、物流システムなどの複数の事業を展開しているため、環境の変化によるリスクをかなり分散できている点も競争優位性を高めている。

3. この競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

これらのオカムラの競争優位性には持続性があると考えられる。なぜなら競争優位性として挙げられているものの多くが、模倣不可能なもので構成されているからである。例えば顧客との信頼関係や、空間設計に関する高い技術力、ノウハウなどはオカムラが長い年月をかけて築き上げてきたものであり、他社が簡単に模倣でき

るようなものではない。

また、オカムラは人材の育成や DX の推進に積極的な投資を行っている。社員の能力向上や、デジタルトランスフォーメーションによる業務効率の改善が見込まれることから、今後も競争力を維持できる可能性が高いことが推測できる。

さらにオカムラが解決しようとしている課題は、今後も継続していくと考えられるものが多い。例えば労働人口の減少や物流自動化への需要の高まりなどは今後さらに加速していくと思われる。そのため、その課題の解決に尽力するオカムラのサービスへの需要も同時に高まっていくと考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上（＝スキルの向上）を達成できると思うか

私はオカムラで人的資本の価値向上を十分に達成できると感じた。その理由としては、オカムラが人財育成への投資を積極的に行っていることがあげられる。統合報告書では、次世代リーダー研修やデザインシンキング研修、オカムラビジネススクールなどの教育制度が紹介されており、人財育成への強い熱意が示されていた。また、「オカムラキャリアジャーニー」という仕組みによって、学びや挑戦などのさまざまな経験をする機会を得ながら成長することができると感じた。

さらにオカムラは DX 推進にも力を入れているため、AI などのデジタルスキル

の向上も見込まれる。特に AI に関する技術の重要性は今後さらに高まっていくことが予想されるため、オカムラのような環境で働くことで自身の人的資本の価値を高めることができると考えた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

オカムラの統合報告書の良かった点は主に二つあり、まず一つ目は企業理念と事業の戦略とのつながりが明確に示されていた点である。「人が活きる社会の実現」という目標を達成するために、各事業がどのように関わってくるのかが丁寧に説明されていた。二つ目は統合報告書に財務情報だけでなく、人材育成や DX などの非財務情報も多く含まれていた点である。これによって企業の成長性を様々な視点から評価できるようになっていた。

一方で改善の余地があると考えられるのは、競合他社と比較した情報が少なかった点である。オカムラの強みはわかりやすく示されていたので十分に理解することができたが、業界の中でどれほどの競争優位性を持っているのかを判断することが難しかった。

6. まとめ

オカムラは「人が活きる社会の実現」を目標とし、顧客課題解決力、確かなもの

づくり、顧客との信頼関係を強みとして持つ企業である。その競争優位性は持続性があり、人財育成や DX 投資によるさらなる成長も期待できる。また、オカムラキャリアジャーニーにみられるように人財が成長できる環境も整っていると感じた。

総合的にみると、オカムラの統合報告書は企業の理解を深めることができるような内容であったといえる。

7. 参考文献

[株式会社 オカムラ | 企業情報 | オカムラグループ 統合報告書 2025](#)